



しりょうかんだより



No.1



郷土資料館を知っていますか。ここでは、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。庭には、昔の人のくらしがわかる民俗資料館や、古墳というお墓もあります。ぜひ、あそびにきてください。



とよたのれきし(げんし1)

(1万6千年から2千300年ぐらい前の話)

上原町で石器が発見されたことから、後期旧石器時代の1万6000年前には、このちいきに人が住んでいたことがわかっています。人々は、動物のほねや石の道具でかりをしたり、草木の実や根を食べて生活をしていました。しかし、土器がないため食物の調理のしかたが限られていました。やがて、縄文時代が始まります。この時代は、縄文式土器が作られて煮たきができるようになったので、旧石器時代より調理のしかたがふえました。豊田市内の遺跡では、一番古い草創期のもので酒呑ジュリナ遺跡(幸海町)、中期のもので曾根遺跡(森町)などがあります。



曾根遺跡公園
竪穴住居があります。
(市指定文化財)



縄文式土器(曾根遺跡出土)
郷土資料館で見られます。
(市指定文化財)

曾根遺跡の場所



豊田市
森町3-71-1



きせつのはなし — お花見 —

◎ お花見でお酒を飲むのはどうして？



お花見にはもう行きましたか？お花見に行くと、たいていのおとなたちはお酒を飲んでいます。中には、桜を見に来たことをわすれて、お酒ばかり飲んでいる人もいます。なぜ、お酒を飲むのでしょうか？

もともと“サクラ”とは、田の神が高い山から里へおりてくるときに、いったんとまる常緑の木や花の咲く木のことでした。そのサクラの代表として桜の木があてられるようになり、春になって桜の木にありてきた神様を料理と酒でもてなしました。そして人間もいっしょにそれをいただくことが本来の意味で、たんなる楽しみではなく、農耕におすびついた大切な行事だったのです。

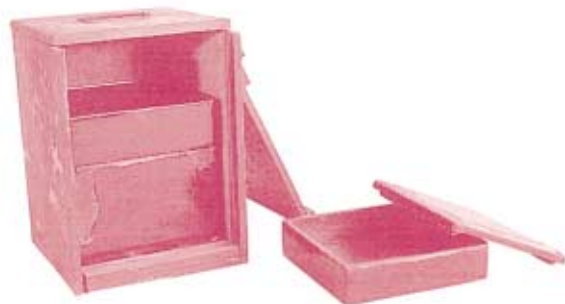
江戸時代には、庶民のあいだでも行楽として花見がさかんになり、各地に名所も生まれ、だんだん本来の意味がうすれて行楽の意味がつよくなってきました。



民 具
M I N G U

提 重 (さげじゅう)

お花見には、お弁当がつきものですが、これは、昔のお弁当箱です。提重は、重箱を持ち運びやすいようにしたものです。重箱は四角い箱を2～5段かさねたもので、今でもお正月におせち料理をつめるのに使いますが、もとはお弁当をいれるうつわでした。写真は明治のはじめごろの提重で、お花見などにはこれにお弁当をつめてでかけました。



■しりょうかんだより No.1■

平成12年3月31日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

でんわ 0565-32-6561